

関西医科大学附属病院で病理診断を受けた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年10月5日

関西医科大学附属病院 呼吸器外科

呼吸器外科では、胸腺上皮性腫瘍(胸腺がん、胸腺腫)に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2006年1月1日～2025年9月30日の間に胸腺腫瘍の手術検体について胸腺がん、または、胸腺腫の病理診断を受けた患者様

1. 研究課題名

「胸腺上皮性腫瘍における tuft 細胞の機能解析:PGD2 を介した発がん抑制メカニズムの解明を目指す多施設共同研究」

2. 研究期間

研究機関の長の許可日～2035年9月30日

この研究は、関西医科大学附属病院・研究倫理審査委員会の承認を受け、大阪医科大学・研究機関の長の許可を受けて実施するものです。開始予定日は2026年2月24日です。

3. 研究の目的・方法

この研究は、まれながんである「胸腺上皮性腫瘍(きょうせんじょうひせいしゅよう)」の発生メカニズムを明らかにすることを目的とした、多くの医療機関が協力して行う共同研究です。私たちは特に、近年注目されている「タフト細胞」と「プロスタグランジン D2(PGD2)」という物質の働きに注目しています。

タフト細胞は、体のさまざまな臓器に少数存在する特殊な細胞で、病気の早い段階で重要な役割を果たすと考えられています。たとえば膵臓の研究では、タフト細胞が PGD2 という物質

を分泌して腫瘍の進行を抑えることが、マウスの実験で示されています（Gastroenterology 2020）。一方で、胸腺のがんである「胸腺癌」では、タフト細胞の特徴を示すマーカー（POU2F3）が陽性となるのに対し、良性腫瘍である「胸腺腫」では陰性となることがわかっています（J Thorac Oncol 2021）。つまり、胸腺癌は「タフト細胞ががん化したタイプの腫瘍」ではないかと考えられています。これまでの予備的な研究では、胸腺癌の中では PGD2 をつくる酵素の働きが弱まっていることが分かっており、タフト細胞の位置や数の変化が腫瘍化に関係している可能性が示唆されています。

今回の研究では、多くの胸腺癌・胸腺腫の組織を詳しく調べ、タフト細胞の分布や PGD2 に関連する因子の発現が、病気の性質や進行とどう関係しているのかを明らかにしていきます。

本研究においては、氏名等の個人を識別できる情報を削除し、研究 ID に置き換えた試料・情報は関西医科大学附属病院、および、大阪医科薬科大学附属病院において解析されます。氏名等と研究 ID との対応表は外部には提供されません。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

手術時に採取された肺組織検体から作製された病理標本

診療録に記載されている年齢、性別、生活歴（飲酒・喫煙など）、職業歴、既往歴、併用薬、家族歴、術後の転帰、再発の有無など

また、先行研究【整理番号 2017057】「ウィルス関与に着目した胸腺上皮性腫瘍発症メカニズムに関する探索的研究」において得られた情報を二次利用する可能性があります

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
関西医科大学附属病院	齊藤 朋人
共同研究機関名	研究責任者
大阪医科薬科大学	石田 光明

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、関西医科大学附属病院呼吸器外科の研究室、および大阪医科薬科大学附属病院病理部の研究室において厳重に管理されます。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等

に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。

7. 研究についての相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒573-1191

大阪府枚方市新町2-3-1

関西医科大学附属病院

呼吸器外科 齊藤 朋人

TEL : 072 (804) 0101